

2021 年度 自己点検・評価報告書

(比較文化研究所)

2022 年 3 月

1. 研究所の理念や方針の設定、明示および周知の状況について

南アジア研究センターの理念や方針については、創価大学公式ホームページに掲載し、日本語及び英語で公開している。

<https://www.soka.ac.jp/sarc> (日本語)

<https://www.soka.ac.jp/en/sarc> (英語)

2. 当該年度の活動状況について

1. センターの活動内容、2. センター員の活動内容、3. 開催行事、4. 研究の具体的進展・成果、5. 学生の学習成果・成長の事例、6. 地域・社会連携、産学連携、7. その他

1. センターの活動内容

同センターは、本学の「新しき大文化建設の揺籃たれ」の建学の精神に基づき、日本と南アジアにおける相互研究と学術交流の促進を目的として活動している。具体的には、下記の学術的な取り組みを推進している。2021年度は、下記のうち(1)、(3)、(4)を進めることができた。

- (1) 南アジア地域および南アジア地域からの移民に関係する諸地域を対象とした研究と教育
- (2) 平和、人権、環境、開発 (UNDP の持続可能な開発目標に連動) を促進する研究
- (3) 日本と南アジア地域の研究者・研究機関と協同し、学術・教育ネットワークを構築
- (4) 上記の目的を共有する学術・教育・文化機関および産学連携の活動

2. センター員の活動内容

調査研究、行事の運営、広報、総務、出版および南アジアの大学・研究者との継続的な交流。

3. 開催行事

本年度は創価大学創立 50 周年であったため、これを記念するイベントを春学期に開催した。研究関連の行事としては、国際会議(1回)、シンポジウム(1回)、パネルディスカッション(1回)、オンライン講演会(2回)の計5つの行事を運営した。教育関連の行事としては、学生間国際交流(創価大学生とインドの大学生とのオンラインディスカッション)を主催した(2回)。

3. 国際化への対応

1. 海外研究者の招聘状況、2. 海外の研究組織との共同研究体制、3. センター員の在外研究の方針と状況、4. その他

1. 海外研究者の招聘状況

国内および南アジア諸国の大学のコロナ対応の状況を鑑み、直接招聘はしていない。代わりに、オンライン開催行事を英語で執り行い、すべての研究関連行事(「3. 開催行事」参照)に海外の講演者を招聘した。

2. 海外の研究組織との共同研究体制

以下の大学との共同研究プロジェクトや教員交流の計画を進めている。

- ① セント・ステーブンス・カレッジ（インド、MoU 締結済）
- ② シューリニー大学（インド、本年度 MoU 締結。）
- ③ ジーザス・アンド・メアリー・カレッジ（通称 JMC、インド）

3. センター員の在外研究の方針と状況

該当なし。

4. その他

該当なし。

4. 次年度の事業計画

・国際会議

日時：11月26-27日（オンラインで開催予定）

テーマ：“The Third SARC International Conference on The New Human Family—Global and Local”

・国際シンポジウム

日時：未定（春学期）

テーマ：“Surviving in a Global Village”

・ジーザス・アンド・メアリー・カレッジと創価大学の共催セミナー「COVID 後の世界における教育」

5. その他

該当なし。

以上